

氏名 白 神 健 志

学 位 の 種 類 医 学 博 士

学 位 授 与 番 号 乙 第 242 号

学 位 授 与 の 日 付 昭和42年 9 月30日

学 位 授 与 の 要 件 博士の学位論文提出者
(学位規則第5条第2項該当)

学 位 論 文 題 目 睪丸腫瘍の研究
—実験的転移 (**Brown-Pearce** 腫瘍) とリンパ節炎にお
けるリンパ系造影像について—

論 文 審 査 委 員 教授 谷 奥 喜 平 教授 小 川 勝 士 教授 妹尾左知丸

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

悪性腫瘍におけるリンパ節の転移の有無を Lymphography で判定することは重要ではあるが、その判読は決して容易ではない。特に泌尿器科領域では後腹膜リンパ系への転移診断が必要である。しかし臨床例では造影像とリンパ節とを直接剖検によって照合することは不可能に近い。そこで著者は Brown-Pearce 腫瘍家兎を用いて、転移リンパ系に Lymphography を施行して、腫瘍性リンパ節の造影像と剖検剔出リンパ節の全割切片組織像を検討し、一方ブドー球菌（寺島株）を家兎睪丸に接種、急性化膿性睪丸炎を起した腸骨リンパ節の炎症性リンパ節の造影像を作り、これまた剖検、剔出リンパ節の組織像で夫々対比した。その結果、定型的な腫瘍性リンパ節像および炎症性リンパ節像を実験的に作り得て、この対照的な両リンパ節の相違点を形態学的に裏付けることが出来た。又リンパ系造影像の解読上、問題点のある辺縁欠損像、細胞構造の乱れ、偽嚢胞形成等の組織像が明らかとなり、それによって転移巢の有無に対する意義付けが見出された。このことは複雑な諸条件の附随する臨床面での Lymphogram の判読に資する処が大である。

(昭和42年10月、日本泌尿器科学会雑誌第58巻第10号掲載予定)

論文審査の結果の要旨

睪丸腫瘍の後腹膜腔転移をリンパ系造影法で確診することは容易でない。本研究は腫瘍転移性リンパ系（Brown-Pearce 腫瘍）及び炎症性リンパ系を家兎に実験的に起した上で、これにリンパ系造影を施し、その特徴ある像と、剖検によりリンパ節構築を対比検討し、未だ解明されていない両者の重要な相違点を形態学的に立証した研究で、価値ある業績である。

よって本研究者は、医学博士の学位を得る資格があると認める。